

同窓会は鳥羽小を応援しています

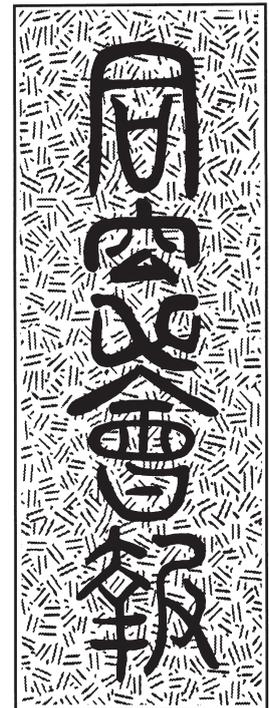


鳥羽リンピック



入学式

鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



平成29年3月
第26号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〜平成28年度卒業生〜





ご挨拶

同窓会長 竹内 小太衛
(昭和34年度卒)

同窓会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

澤本啓一前会長の後任として二年間務めさせていただきました。何かとお世話になります。よろしくお願い申し上げます。

同窓会事業には二本柱があります。一つの柱は、この会報を皆様にお届けすることです。今号も八名の方から玉稿を賜りました。母校や鳥羽谷が自分を育んでくれたのだという想いがひしひしと伝わってまいります。皆様も時代や地域や自身を改めて見つめ直すことができるのではないでしようか。感謝申し上げます。

もう一つの柱は、母校へ備品を贈ることです。町行政からの支出が難しい品を納めることで、教育環境を整えていただきたいの願いです。今年度は、体育館内用に大型ジェットヒーター一台を贈りました。

十二月十四日は普段着参観日でした。鉄棒と跳び箱の全校児童の発表会です。力一杯の演技に、保



ジェットヒーター

護者や家族の方七十余名が拍手で応援されている。体育館入口横の新品ヒーターの傍には「この暖房機器は同窓会費で購入させていただきました。」との説明書がボードに貼られてありました。「去年は寒かったけど、ありがたいこと。」発表会に参観されていた一人のおばあちゃんのヒーターを見つめながらの独り言です。ヒーターも「お役に立ててよかった。」

と言っているようです。

発表会が終わり、駐車場まで出ると、「円相体⁹⁸」(創立百周年モニュメント・長谷光城先生作)が目に残りました。上部の空間は鳥羽川なのかな? 左右は東と西の集落? それとも保護者(家庭)と同窓会(地域)? 前に置かれている丸い石は子どもたち? あるいは母校そのもの? もしかしてこのモニュメント全体が「霊鳥輝く 我が校旗」ではないのかな。



ご挨拶

校長 竹内 久典
(昭和46年度卒)

母校の鳥羽小学校へ校長として赴任してはや一年が経とうとしています。同窓会員の皆様には陰日向にご支援をいただき誠にありがとうございます。紙面をお借りしましてお礼申し上げます。

さて、同窓会報の校長挨拶として原稿依頼を受けましたが、やはり私も卒業生、同窓会の一員としても何か記すことはないかと頭を悩ませ、自身の小学生時代の思い出を通して校長挨拶とさせていただきます。

光城先生名の別読みと勝手に結び付け、無礼な想像を巡らしながら帰途につきました。

子どもたちが健やかに育つには、学校と家庭と地域が、しっかりと意思疎通を図り、繋がること、が基盤となります。地域の一人として、母校の応援団として校旗を力強く振り続けたい。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

御多分に漏れず私たちの同窓会でもアルコールが入ってくると、半世紀近く前のことなのに、「○さんは△△さんのことが好きだったなあ。」とか「××君はよく泣いて暴れたなあ。」「休み時間になると校庭に飛び出しフットベースボールだったなあ。」とか懐かしい思い出に花が咲きます。その中で、結構やんちゃが多かった私の学年は「若い女の先生を泣かしてしまった。」とか「暴れると教頭先生が叱りに来た。」とい

う先生の話題になります。先生と一緒に楽しく過ごした思い出話は数知れませんが、時折、先生への批判が混じります。ほとんど冗談で笑いのネタなのですが、ドキリとする場面があります。それは、当時大人しい女の子だった同級生がなんと鋭い目で教師を見つめているのか、そしていまだに覚えているのかということが分かる場面です。みんなは笑っていますが同じ教師としての私は、その姿を自分も投影してしまいます。現役生活も終盤に差し掛かってくると「私は教えた子どもたちにどう映っているのだろう。何かハラメント的なことはしなかっただろうか。傷つけるような言葉を発していなかっただろうか。」ということが気になってきます。

ですからもう少し本校の児童と交流があってもよかったのではないかと今思います。もう分校はなくなりましたが、もし分校があったとしたら、私は校長としてそのまま理科室を控室にしたらどうか。分校の児童の気持ちを理解した対応ができるだろうか。自分に問いかけています。何も言わない小さな子どもたちですが、じつと教師を見つめています。その心の中をいつも斟酌できる校長でありたいと思っています。

昭和四十年年度卒かあ。長いような短いような……。一年生から六年生まで担任の先生が替わるうち、三、五年には水江源治先生に教わりました。

ある程度の脚色はありますし、言葉足らずですが、先生の話から入ります。

ある日、先生のワイシャツのポケットが、ペンのインクで赤く染まり、血が滲んだように見えたのが話の始まりでした。

「あつ、撃たれた。」

と胸を押さえるアクションの後、突然、

「戦争の怖さを今から話します。人が人を殺すのがあたりまえ。善悪も考えられず、自分が何者かも解らなくさせられ、生きるために自分を殺し、納得させ……。まして知らない国で……。」

命を大切にしない。他国の人もやさしい人になつてくたさい。決して自分を見失うことのないように、自分に正直に。」

後年になり、先生の戦地がベトナムで、奥様がベトナムの方だと



いなり寿司とすっぽん足袋

原 田 達 夫

(昭和40年度卒)

知り、納得できた話でした。これに思い出の授業です。

次に、毎年の楽しみは運動会でした。

走るのに運動靴ではなく、すっぽん足袋を履きました。(この足袋については、地域や時代があつて、日本全国違うようでした、知らない人が多くてシヨックでした。後日談)

団体競技に履かず、徒競争だけ履くのです。不思議に気合が入り、賞品の鉛筆やノートをねらつて走っていました。足袋は布製だったので、水に濡れた思い出がないので、晴天時まで運動会をしなかったのかも。時代ですね。

で、昼食になると、決まっていたのでしょうが、運動会の日以外に食べた記憶が無いのです。そのいなりについて、(そんないなりの揚げや具の入った缶詰知らないという話なのであえて)大きな缶に具や揚げがすべて入っていたのです。我家で揚げを煮ることが、まずなかったからです。他の所で



作ってもらったのかも知れませんが。で、中身の具ですが、麻の実が入ってませんでしたが？

最高の御馳走でした。

このいなり寿司とすっぽん足袋の最強コンビで満足していた小学生でした。

あと、鳥羽小を有名にした出来事は、台風で校舎が傾き、つかえ棒の学校として知られた事です。

その後、修復されたかは記憶に無いのですが、まあとにかく、三田区民であったので、常に隣が学校という意識でしたから、不登校もせず、いろんなつかえ棒に支えられながら、今日に至っています。

いい小学校でした。

この文を書かせてもらったお陰で、カラオケで仰げば尊しを



時代の流れと変わりゆく景色

三宅 嘉治

(昭和44年度卒)

私は昭和三十三年三月三日の雛祭りの日に誕生しました。おかげ様で私の誕生日はすぐに覚えてもええますし、全国の女の子が私の

誕生日を祝ってくれていると得手勝手な思いで喜んでいきます。小学校は、一、二年生の間は麻生野分校で過ごし、三年生から本

唄うようになりました、いなり寿司とすっぽん足袋について、情報がありましたら教えてください。

(おい町岡田 在住)



校へ歩いて通うという二段階的な学校生活でした。分校での担任の先生は松岡先生で、優しいながらも時には厳しく一生懸命勉強を教えてくださいました。本校に通うようになってからは、毎日四キロメートル弱の道のりを歩いたり走ったりしながらの通学で、足腰がずいぶん鍛えられたのじゃあないかなと思います。

私たちの小学生の頃は、冬場には今よりももっと雪が多く降り気温ももっと低かったと思います。あの頃は、真冬の冷え込んだ朝などには雪の表面が固く凍りその上に乗ることができたので、道を歩かず田んぼに積もって凍った雪の上を歩いて学校へ行ったことが何度もありました。

鳥羽小学校を卒業し、上中学校、舞鶴高専を卒業した後、社会人として働きはじめ、来年は還暦を迎える歳になってしまいました。また、これと同時に定年退職の歳でもあります。

鳥羽小学校を卒業してから四十七年の歳月が流れ、この間に鳥羽谷の風景もずいぶん変わりました。鳥羽谷の真ん中には南北を通して北部幹線が通り、三方方面に無悪から若狭トンネルが抜け、田んぼは土地改良できれいに整備され、高速道路である舞鶴若狭自動車道が上黒田から三田へ東西に通ると

ともに上黒田に若狭上中インターチェンジができるなど、小学生時代には思いもよらなかった変わりっぷりです。このように環境は整備され道路事情も格段に良くなつたのですが、鳥羽谷も田舎のご多分に漏れず少子高齢化が進んでいます。私の鳥羽小学校の同級生は二十二人で、前後の学年と比べると一番少ない人数でしたが、今の鳥羽小学校の学年別児童数を見てみると二十二人が一番多い人数となっているようです。少子化の影響も受け、明治三十二年に麻生野分教場として開校した我が人生最初の母校である由緒正しき鳥羽小学校麻生野分校は二十三年前の平成六年に廃校となり、二十年前の平成九年には取り壊されて現在は



ありし日の麻生野分校

集落センターの駐車場となつています。

昨年十二月に敦賀以西の北陸新幹線が小浜京都ルートに決定したことによって嶺南全体が活気づいています。これからこの波に鳥羽谷も乗ることができれば鳥羽もんの活気もますます上がり人口増加にもつながって、地域の元気の源である子供も増えてくれるのでは

と期待をしているんですが……。

時代は流れて鳥羽谷の景色は変わっていつてますが、鳥羽谷を愛する私の心は永遠に変わることはありません。輝ける鳥羽谷の発展を願いながら、体の動く限り働き続け少しでも鳥羽谷のために尽くしたいと思えます。

鳥羽谷よ、永遠なれ!!

(若狭町麻生野 在住)

学校までは4キロ

内 藤 早百合

(昭和47年度卒)

鳥羽小学校を卒業して、早や四十数年が過ぎました。小学校時代の記憶をひもときながら、思い出をつづらさせていただきます。

私の住む所は、学校の中でも一番遠い所です。四キロくらいの道のりがありました。そのため、当時は麻生野に分校がありました。一、二年はそこに通っていました。入学当時は分校までの一キロほどの道のりを三人の二年生が先導してくれました。二年生は、一年生の緊張をほぐすためか、変顔をしてくれたり、道に生えている草で遊び方を教えてくれたりして、楽しみながら通うことができました。

ました。小さいながらも年上の者が年下の者を思いやるという、ほのぼのとした時間が流れていたのだなあと思えます。

三年生になると今の鳥羽小学校であります本校に通うことになり、四キロの道のりは一時間くらいかかりました。当時は男女別で集団登校してまして、六年生をはじめ、四、五年生のお姉さん方が、長い道のりを歩くのを慣れない三年生が無事に本校までたどり着くように、いろんな話をしてくださいました。学校の先生、お菓子やおかずなどの食べ物、テレビ番組のこなどなどと。雪が積もった後の

氷点下の寒い日には、固くなった雪の上を歩くようなスリル満点のこと。

今思えば、毎日四キロの小さな旅をしていたのだなあと懐かしく思い起こされます。それと雨の日も風の日も、暑い暑い夏の日も、寒い寒い吹雪の冬の日も、毎日毎日四キロを歩いたおかげで、自然と体力と根性をつけてもらえたと思えます。

同級生とは、六年間も同じ教室で一緒にいましたので、仲良くしていた人とはもちろん、ケンカばかりした人とも、同窓会等で会えば気軽に〇〇ちゃん、△△ちゃんと呼び合い、小学校時代そのまままで話し合うことができます。

五十数年の人生の六年間ではありましたが、こんな楽しい思い出をたくさん作ってもらえ、いろんな経験をさせてもらった当時の先生方に感謝いたします。

55才になった今

今、私は滋賀県の高島市に住んでいます。琵琶湖岸に歩いて二十

今は、現役で働いてますので、緊張することが多い日々ですが、小学校時代のことを書く機会を与えてくださり、昔を懐かしみ、ちよつと一息つくことができました。たことをありがたく思います。

私の子どもたちも、鳥羽小学校にお世話になりましたので、今後も校下の一住民として微力ながら学校のためにお手伝いさせていただきます。と思っています。

(若狭町海士坂 在住)



内 藤 いつ子

(昭和48年度卒 旧姓 霜中)

分ほどで行くことができ、ウォーキングをするには最高の場所です。

す。天気の良い日は、対岸の彦根や長浜も見ることがあります。琵琶湖があり、四季折々の伊吹山を眺めることもでき、自然豊かな良い所です。

こちらに嫁いでもうすぐ三十年になります。生まれ育った大鳥羽に居た時よりも、こちらにいる方が長くなりました。今ではここが私の居場所であることを感じています。

今まで、結婚、子育て、そして仕事と、昔のことを振り返ったり思ったりすることなどほとんどありませんでした。会報のお話を頂いたことよって、小学生の自分を思い浮かべました。

あの頃の私は、朝起きるのが弱く、集合にいつも遅くなって迷惑をかけていました。それに一年生の時は、授業中によくあくびをして注意されていたことを思い出します。よほど目立っていたのでしょう。

最近雪が少なくなりりましたが、私が小学生の頃は雪が多く、凍った雪の上を歩いて学校まで行ったことがあります。直線距離で行けたので、得したような気持ちになりました。でも、すごく寒くて冷たかったです。

高島に来て十年間は、子育てをしながら家で過ごしました。今思えば、この期間は私にとって貴重

な時間でした。子供に笑ったり悩んだりして、親として成長していくことを実感する時期でした。その後、パート勤めを始め、今年で二十年になります。子供を通じて友達もでき、パート先での知り合いや仲間もでき、慌ただしい中でも、楽しい毎日を送っています。

今は一人一人携帯を持つ時代になって、人とのコミュニケーションをとらなくても情報が入るようになりまし。日々、何もかもが進化していき、私が小学生の頃とは比べものになりません。朝起きればご飯が炊けていて、洗濯も終わっています。この空いた時間を携帯やパソコンに使うのではなく、人としての温かい時間を持つといいですね。今、二才になる孫がいます。コ



冬の琵琶湖から望む伊吹山

ミュニケーションが薄いこの時代、この子が成人する頃はどんなになっているのか、期待よりも不安の方が大きいです。温かい感情を持ち、会話のできる人に成長してほしいと願うばかりです。

実家に帰ることが少なくなりましたが、実家の窓から見える鳥羽小学校を懐かしく思い、今でも落ち着く場所です。



鳥羽谷を歩く

小林 加奈子

(昭和50年度卒 旧姓 武田)

素敵なふる里があること、帰る場所があること、そして毎日平凡に過ごしていること、それこそが一番の幸せですね。

少子化が大きな問題になっている今日ですが、母校鳥羽小学校がいつまでも存続することを祈念しております。

(滋賀県高島市 在住)

いつの頃からか、四年に一度夏季オリンピックの年に同窓会を開くのが恒例になった。最近では「毎年でもしよう」と言う人も多い。毎回参加の人がいれば、一度も参加しない人もいるけれど、いない人のことも「どうしてるかな」「こうしているって聞いたけど」「次には会いたいよね」などと言ひ合うので、会っているようなもの。「私たちは親戚、のようなもの。つながりは切れない」と勝手に思っている(とはいえ、願うは全員参加)。

以前大阪で同級生数人と会っ

たとき、当然小学校の話になり「みんなの名前をあげよう」となった。そんなときはやはり「まず大鳥羽は……」となる。記憶力のあやしい年頃にとって、出席簿が集落順というのにはありがたい(数十年を経て、その恩恵に浴す(笑))。集落を順にたどり、ひとりずつエピソードを交えながら、三十六人プラス転校して来て転校して行った一人、十二集落をぐるり。鳥羽は川と田んぼを真ん中に集落が山裾に連なる谷だから、尚更簡単だ。ひとりも取りこぼすことなく、全員フルネームでクリアした。



鳥羽公園から

今さらつと「谷」と書いたが、子ども頃は鳥羽を谷と認識してはいなかった。気づいたのは、鳥羽を離れてからだ。
 十八歳で移り住んだ大阪、ピルの屋上から見た空はとてつもなく広がった。見渡す限りの空、六甲や生駒といった山々は遠くにぼんやりしているだけ。果てがないように見えた。

「鳥羽の空と全然違う……：：：そうか、鳥羽の空は山々に四方を額のように縁取られていたから、あの大きさだったんだ」。そのとき初めて、鳥羽を谷と実感したように思う。
 いつの頃からか、帰郷のたび

に散歩をするようになった。犬

がいたときは犬と、姪や甥が付き合ってくれるときは彼らと、夫も誰もいないときはひとり



お地藏さん

このお正月は、ひとり自転車でうろうろした。道中、歩いている人は誰もいない。すれ違うのは自動車ばかり。ふと「この世界にたった一人」のような錯覚にとらわれた（ちよつと脚色過多）。

通学の道は、もうとところどころ違う道だ。草わらのお地藏さんは、いまはコンクリートの中。鳥羽富士も鳥羽川も、脳内イメージよりずっと小さい。

鳥羽公園へ行く。小学校卒業のときに植えた桜は整備工事とともに消え、鹿の公園になっていた。第二次世界大戦後だと思っていた忠魂之碑の建立は大正五年、ちょうど百年前だ。日露戦争、大東亜戦争の戦没者を刻んだ碑に、幾人もの同姓の女性名があった。大陸からの帰還途上に爆沈された船の鳥羽の人だと知った。

見知っているはずの故郷の

に訪問者のように感じられて、心が当事者（住人）と第三者（異郷人）の間を行き来する。「故郷を旅している」不可思議な感覚。

生まれた地、育ったところ、住んでいる場所だからこそ、新しく見つけられるものがある。鳥羽谷は小さいけれど、泉であり、深い井戸だ。同級生みんなで散歩したら楽しいかも。勝手に想像して、勝手にワクワクしている。（大阪府大阪市 在住）



「なんでみんなと遊ぼうの！」

長谷光展

(昭和56年度卒)

二年生のころ、給食後の「ごちそうさまでしたー！」の掛け声とともに、私一人が教室で過ごす時期がありました。理由はわかりません。ただ、一人で教室や、図書室で過ごすのが心地よかったのを覚えています。

ある日の昼休み、校庭のみんなの楽しい声が教室内に響いていきます。僕は相変わらず明るい太陽の差し込む教室で「一人」を楽しん

でいました。すると、先生がやってきて、「みつのぶくん！ みんなと遊んできな！」とまるで怒っているような言葉とともに近づき、私の腕をギュッと握って校庭まで連れていかれました。

校庭では「ていきゅう」といって柔らかなゴム製ボールと竹バットを使ったミニ野球の最中です。先生は「みんな！ みつのぶく



忠魂碑と殉国之碑

んも仲間に入れたって！ 頼むでー」とみんなに声をかけると、私の両肩をギョツとつかんで目を覗き込み「みんなの仲間に入れてもらいや。」と言うと送り込みました。

みんなは、僕ができるポジションを考えて「キャッチャー」をさせてくれました。バットで球を打つことがない私は、表も裏も関係なくキャッチャーでした(笑)。

このことがきっかけで、教室で過ごすことよりも、ていきゆうにハマリ、放課後は家に帰ったら鉋と鋸を持って山へ行き、自分のバットを探しました。

竹のバットはすぐ割れるので、節の残し方を研究したり、グリッブにビニールテープを巻いてかっこよくしたりと、夢中でした(笑)。

こうやって、友達と遊ぶようになるのと「喧嘩」もするようになります。じゃれあいから、何かがきっかけで喧嘩になるのですが、それも一瞬で終わり、また一緒に遊ぶといった感じで、今思えば本当に忙しい毎日でした。

今年、「年男」を迎えた私が楽しんでる魚釣りもその頃から始めた遊びのひとつです。

糸、針などはさくら堂で購入して、竿、エサは自分で調達することから始まります。山に行つて竹を

切り、枝を払い、竿を作り、良く釣れるミミズを求めて走り回るなど、たくさん遊びを重ねて目的の「釣り」という遊びに到達します。そして、友達のいろんな工夫を見せ合うことで、その遊びがどんどん深くなっていきました。

今回、同窓会報への執筆を依頼され、小学校の思い出を記憶の暗闇から引き出して見ると、今の「自分」という人間は、多くの「人」との関わりから生まれたものであることを強く感じます。

あの晴れた日、僕を引っ張ってくれた先生は、同窓会報第二十五号(平成二十八年三月発行)に登場された「田村初枝先生」です。田村先生には一年生から三年生まで受けもっていたとき、私たちの卒業と同時に教員生活から卒業されました。

あの時の先生には数十年後の私の姿が見えていたのでしょうか？ 「先生、僕はみんなと遊んでいますよ。」(若狭町長江 在住)



いい思い出を

上 中 涼 子

(平成5年度卒 旧姓 出口)

十一月に娘の七五三のお参りのために、美容室で着付けをしてもらっていた時のこと。この日は美容室は休みだったが、それと知らずに来られたお客さんの声に聞き覚えがあった。「吉田先生ですよね？」と声をかけると、「えーっ！もしかして涼子ちゃん？」とわかつて下さった。

吉田さゆり先生は二十五年前と変わらない元気ハツラツとした声で、「涼子ちゃん、手紙をくれたよね。」と、そんな小さなことまで覚えていて下さった。私が三年生の時に担任して

もらい、しばらくして産休に入られたので、ほんの少ししか一緒に過ごせなかった。でも、すごく楽しく嬉しかったことはよく覚えてる。その後、娘の着付けが終わると、「そっくり。可愛いねえ。」お母さんに



なった涼子ちゃんに会えて、今日はほんとに良かったわあ。」と言つて帰られた。

私は今、小浜市に住んでいる。でも、学校の恩師に会える機会はなかなかない。こうして、吉田先生に偶然お会いでき、しばらくいろいろな先生のことを思い浮かべていた。どの先生にも愛情を持って育てていただいた。

「息子が広島に行く機会があるからみんなで千羽鶴を折つて届けてもらおう！」と提案して下さった岡本瑞子先生。私は小さいなが

らも戦争の恐ろしき、悲惨さ、人間の弱さ強さを知ることができた。放課後、一緒に遊んで下さった井上誠一郎先生。ストンプウオッチを持って『爆弾ゲーム』という遊びをした。今思えばよくわからない遊びだが、面白かった。黒板に定規なしで一直線に線が引ける！と得意気にみんなの前で披露して下さった若新一雄先生。その時は「ふん。」としか思わなかったけれど、今思えばあれは心の歪みがなく精神統一できてこそその一直線だったかも知れない。私はその頃何度か挑戦したが一直線に書けることはなかった。やっばり若新先生はすごい。そして、岡本繁夫先生。もうすぐ中学生になる私たちを厳しくも温かくご指導いただいた。授業は、全員が理解するまで何度でも繰り返し教えて下さった。岡本先生は

マラソンが好きで、六年生の時には十八人でフルマラソンリレーをした。一人百メートルずつグラウンドを走り、バトンを繋いで四十二・一九五キロ走るというものだった。単純計算すると一人二十三回以上走ったことになる。六年生が全速力で走り続けて二時間十分ぐらいだったか……。タイムは忘れてしまったが、改めてフルマラソンの選手は速いなあと友達と話したことを思い出す。

偶然の吉田先生との再会が小学校時代の恩師のことを思い出させてくれ、こんなにいるんなことが思い浮かんだ。

どうか、鳥羽小学校に通う鳥羽っ子たちも素敵な先生方や友達と出会い、たくさん楽しい思い出ができますように。

(小浜市 在住)

選んだ道を生きる

重 長 祐 亮

(平成20年度卒)

私は高校を卒業してから地元での就職を選択し、はや二年がた

うとしています。まだまだ上司の方たちと比べると知識は足元にも

及ばず、覚えることが沢山あり、本当に毎日が勉強でとても疲労が溜まっているのが現状です。ただ少しづつ雰囲気や勤務体制に慣れてきて、今、仕事をさせていただいている環境もすごく良く、充実した毎日を送れているんじゃないかと思えます。

私は地元での就職を選んだわけですが、今の職業を決意した当初は、大学へ行つてもうちよつと野球がしたいという未練があったり、遊びたかったり、周りから受からないだとかどうせ落ちるだとか散々言われたり、そのほかのこともうまくいなくて、だいぶストレスが溜まっていた時期がありました。

そんな時ふと音楽を聴いていたら、「選んだ道を生きてみたいし、神にすがってちゃ誰も飛ばやしない」というフレーズを耳にしとても共感しました。これは日本語ラッパーのアンキーという人が書いた歌詞です。自分がかっこいいと思うことはかっこいいと貫いており、私の憧れの人です。

「どの道を選ぶかではなく選んだ道はどう生きるか」という言葉があります。私も同じ考えでどの道を選ぼうと一緒に、結局自分が選ばなかった道がだんだんよく見えてくるだけだと思えます。私もぶつちやけた話、大学生のみんな

はとても楽しそうに生活していてももうらやましい限りです。ただ私は大学生とは違う選択をしました。人生に「もし」はなく、自分が見出した道を歩き始めたら、責任を持って歩かなければなりません。そして人生は選択の連続で、分かれ道がいっぱいあります。私はまだまだ若く、これから何十年後かに、あの時この道を選択していったからこゝまで来られたと言えるようになるため、これから選んだ道はどう生きるかがとても重要になると思えます。

私は不器用な人間です。これが



卒業式を終えて

ら先みんな以上に失敗し、痛い目を見るのが目に見えています。そこであきらめたりせず、一つの経験、これからの自分の糧と
思い、生活することによって、その失敗が私を成長させてくれると思います。

選択した道に「そっちはまちがいじゃないか」とか「そっちはいくんや……」など言ってくる人は必ずいます。周りの声に素直に耳を傾け行動するのは大切だとは思いますが、先輩から学び、本やネットから知識を拾うのも大切だと思えますが、自分の考えはすべて他人と一致するわけが無いし、一人ひとり物事の見方や視野の広さは違うから自分の物差しで測る事はよくないし逆も然りです。

私の人生は私のものです。ふと振り返ったときや、死ぬときに満足できたなと思えるように自分がこれから選ぶ道、する選択に責任を持って判断しなければならぬし、自分の一度の人生なのでやりたいことをやって、着たい服を着て、食べたいものを食べて、「自分らしく」生きていけます。

(若狭町三生野 在住)

学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1 年	8	9	17
2 年	16	7	23
3 年	11	7	18
4 年	12	8	20
5 年	7	11	18
6 年	8	8	16
計	62	50	112

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	7	4	11
上黒田	5	5	10
麻生野	5	3	8
海土坂	3	8	11
三生野	7	2	9
無 患	2	2	4
三 田	3	3	6
小 原	3	4	7
南	6	4	10
山 内	5	5	10
持 田	2	2	4
長 江	2	1	3
朝 霧	9	7	16
有 田	1	0	1
サソコボラス瓜生	1	0	1
南前川	1	0	1
計	62	50	112

【平成28年度 教育目標】

自分の良さを生かし

向上心をもって生きる児童の育成

- ・すすんで学び高め合う子の育成
- ・自分も友だちも大切に作る子の育成
- ・丈夫な体づくりに取り組む子の育成

【主な行事】

4月	入学式・始業式・集落児童会・身体計測・交通安全教室・PTA総会・全国学力学習状況調査・敬老会
5月	春季遠足・田植え・内科検診・PTA奉仕作業・鳥羽リンピック・歯科検診
6月	避難訓練・プール清掃・前期校内研究会・プール開き・家庭地域学校協議会・民生委員と語る会
7月	教育懇談会・PTA研修会・終業式・自然教室
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・稲刈り・自由研究発表会・PTAリサイクルバザー
10月	町小学校陸上記録会・学校訪問コンサート・秋季遠足・後期校内研究会・修学旅行
11月	就学時健診・町小中学校音楽会・校内マラソン大会・避難訓練・町P連ソフトバレーボール大会・人権集会
12月	器械運動発表会・町県学力調査・教育懇談会・PTA講演会・終業式
1月	始業式・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・そり遊び体験・スキー教室
2月	スケート教室・なわとび発表会・家庭地域学校協議会
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

【職員構成】(平成28年4月現在)

校長	教 頭	教 諭	養護教諭	事務職員	支援員	調理員	校務員	合 計
1	1	7	1	1	1	1	1	14

平成28年度 鳥羽小学校同窓会決算書

平成29年3月4日現在見込み

<収入の部>

(単位：円)

	28年度予算額	28年度決算額	比較増減	備考
会費	428,000	422,000	△6,000	1,000円×422戸
協力金	7,700	7,700	0	職員700円×11人
寄付金	0	0	0	
雑収入	84	12	△72	利子他
繰越金	50,316	50,316	0	
合計	486,100	480,028	△6,072	

<支出の部>

(単位：円)

	28年度予算額	28年度決算額	比較増減	備考
会議費	23,000	16,602	△6,398	役員会、理事会、編集委員会
事務費	49,000	15,054	△33,946	印刷インク、マスター用紙、郵送料等
事業費	410,000	440,775	30,775	
会報	130,000	100,000	△30,000	同窓会報第26号
教育振興	280,000	340,775	60,775	児童図書等 赤外線ジェットヒーター スキー・スケート教室補助
予備費	4,100	5,000	900	
合計	486,100	477,431	△8,669	

平成28年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役員	集落	氏名
会長	海士坂	竹内 小太衛
副会長	小原	岩本 守博
"	海士坂	高橋 ひづる
顧問	三田	小林 銀右エ門
"	無悪	兼松 勉
"	三田	福谷 洋
"	大鳥羽	松宮 保彦
"	三田	岡本 嘉樹

役員	集落	氏名
顧問	上黒田	澤本 啓一
"	校長	竹内 久典
幹事	上黒田	山崎 智子
"	麻生野	三宅 繁樹
監事	無悪	竹内 一善
"	長江	谷口 文代
事務局	教頭	三宅 勝

役員	集落	氏名	名
理事	大鳥羽	松宮 香絵	森下 太子
"	上黒田	澤本 由美	山崎 智子
"	麻生野	中島 秀司	香川 昌範
"	海士坂	中村 浩樹	池田 貴一
"	三生野	吉村 幸雄	吉村 一
"	無悪	橋本 珠樹	宮田 剛志
"	三田	佐野 和彦	深水 輝久
"	小原	松井 良典	清水 邦夫
"	南	東 英範	澤田 侑哉
"	山内	宇野 幸一	寺西 浩子
"	長江	山本 初男	武田 佳代子
"	持田	竹内 奈央	玉井 純枝
"	朝霧	鳥羽 角栄	

編集後記

この会報の編集にあたり、ご寄稿賜りました会員諸氏に心より感謝申し上げます。昨今、少子高齢化問題が全国各地で話題になっていますが、母校の児童数の変遷を少しお伝えします。平成五年度から五年おきに見ますと、一三九名、一三五名、一六四名、一二〇名、そして、平成二十五年年度が一一名となります。この平成二十八年年度は一一名となりました。平成時代を通しますと、十五年度の一六四名がピークでした。今、若狭町では、交流人口を増やし、町の活性化を図ろうと努めているようです。高速道路のインターは学校から一分のところにあります。鯖街道は日本遺産に認定されました。外国からの観光客も台湾を中心に増えてきています。新幹線も決まりました。なんとか故郷の発展に結びつけられたいと念じています。末尾ながら、同窓生各位の益々のご活躍を、衷心より祈念申し上げます。

(右本記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



鳥羽地区敬老会



交通安全教室



田 植 え



鳥羽リンピック



水 泳 学 習



鳥羽川生き物観察会



学校訪問コンサート



秋 季 遠 足



修 学 旅 行



公 開 授 業



山内かぶら収穫



器械運動発表会



1・2年そり体験



3・4年スケート教室



5・6年スキー教室